

年頭のごあいさつ



日本アイ・ビー・エム健康保険組合
理事長 山口 俊一

被保険者ならびにご家族のみなさまにおかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当健康保険組合の事業運営につきまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年10月に消費税率が引き上げられました。消費税は現役世代のみならず高齢者を含め国民全体で広く負担しますから、この引き上げにより、高齢者に手厚い構造となっていたこれまでの社会保障制度は、現役世代はもちろん、未来を担う将来世代をも支えるための全世代型社会保障へ転換していくことが期待されます。

医療保険の分野では、団塊の世代が75歳に到達し始める2022年には、高齢者医療のための拠出金が急増し、医療保険全体の財政悪化が急速に進む「2022年危機」の到来が確実視され、健康保険組合を取り巻く環境は今まで以上に厳しくなることが予想されます。政府は本年6月を目前に、医療保険制度などの給付と負担の見直しを含む改革に向けた重点政策を「骨太方針2020」として取りまとめる方針です。また、健康保険組合連合会は、昨年11月22日に行われた健康保険組合全国大会において、全国の健康保険組合の総意として、「迫る2022年危機！今こそ改革断行を！」と決議し、一刻も早い高齢者医療費の負担構造改

革を厚生労働大臣はじめ各政党に要請しているところです。

全国の健康保険組合に目を向けると、高齢化や高額薬剤の保険適用などによる医療費の増加などを背景とした厳しい状況に置かれており、現役世代の負担は膨らみ続けています。一方、少子高齢化により社会保障の支え手が減少し、健康保険組合には、健康寿命の延伸と医療費の増加抑制を担う役割が一層求められています。当健康保険組合といたしましても、コラボヘルスを推進し、データ分析に基づいた効果的かつ効率的な保健事業を実施して、引き続き、みなさまの健康増進をサポートしてまいります。

オリンピックの年、スポーツへの関心も高まります。みなさまにおかれましても、日々の生活に運動習慣を取り入れるなど、日常の健康づくりにご留意いただくとともに、医療機関および接骨院・整骨院にかかる際の適正受診やセルフメディケーション^{*}、ジェネリック医薬品の使用などにより、医療費の節減・適正化にご協力いただきますようお願い申し上げます。

本年がみなさまにとって実り多き一年となりますことを祈念申し上げます。

^{*}セルフメディケーション：「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と世界保健機関（WHO）が定義している。自分の健康状態を日々チェックし、生活習慣の見直しや改善に努め、軽度な不調は症状を緩和する薬（一般用医薬品）で手当てするなどして、自分の健康は自分で管理しようという考え方。